（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）　月曜及祭日の翌日休刊（日刊）　明治四十三年七月九日　（土曜日）　第四百五十一號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行金十五錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

漢城より　北韓山生

▲北京電報に依れば、支那紙幣條例第十九箇條は、去廿九日發表せられたる由、其要旨左に御座候

一大清銀行より發行し大清銀行兌換券と名づく

紙幣の種類は一圓五圓十圓百圓の四種とし準備金の五割を以て發行額度と爲す

三紙幣は硬貨同樣に流通せしめ打歩割引等を許さず之を爲す者は嚴罰に處す

四大清銀行は發行の翌年正月より起算し毎年純利益の六歩を三期に分ちて政府に納め五年後よりは毎年七歩十年後は二割を納め漸次發行數を增し資本金と同額に達する時は總利益の三割を納付するものとす

▲右は清國貨幣制度の進歩に相違無し而して清人は其便益を蒙むる第一者ながら、舊物に泥むこと頗ぶる頑强たる清人は、打歩、割引の弊を避すもの無かるべしやは頗ぶる疑はしく候、斯る事には習慣の無い丈け韓人は御し易く候、

▲我政府は、韓國鐵道を鐵道院より分離して、再び統監府の管理に歸せしめんとの議起し、殆んど内定を見るに至りたる由に御座候、此の事に關し或官人は曰く

韓國鐵道を鐵道院より分離せしめんとするは政府の統一政策と撞着するが如き觀あるも這は畢竟其の着眼點の如何に依りて較るゝ議論にして苟も韓國を本位として之を觀察する時は決して不當の處置とは云ふべからず而かも斯の如きは廟議あるや否は明言する能はず又其實施の時期如何を知らずと雖も寺内統監の方針は韓國鐵道の十一箇年計畫を短縮して八年計畫に繰上ぐるの豫定にて到底内地各線と其權衡を保つ能はざる事情もあれば寧ろ鐵道院と分離せしめて獨立の經營に一任する方或は相互の便宜ならんかと思はる云々

韓鐵の十一年計畫を短縮せんが爲めに所管更へを爲すの必要あらば夫れも可なり、唯々鐵道の急設を希望致し候、

▲新渡邊第一高等學校長は卒業生への告辭の一節に於て現今の我諸學校は、生徒訓育の方面には、更に其力を致す能はず、校長が其生徒に及ぼす人格的感化の如きは實に些少なり、我輩諸君を化す能はず、諸君は相互の切磋琢磨によりて品性を修養せり」と述べられしやに御座候、生徒相互の切磋琢磨固より大に可なるも、今の韓國に於ける邦人の中學校生徒には期し能はざる理由あり、教育家の一考を要すべき事にて候、

世界人類の絶滅

▲故コッホ博士の豫言

故コッホ博士より篤き信任を受けたる獨逸の科學者アドルフ、ツキムメンマン氏は同博士の唱へたる世界人類絶滅論を近々出版すべしと云ふ同博士は世界各國人種の出產率次第に低下し結局絶滅すべしと唱ふるものにて以下は同博士が右に關しツキムメンマン氏に說明したる一節なり「吾文明國民の出產率は最初居揚りの狀態を持續しつゝ其文明が或程度に發達するか若くは其黃金時代に達せんとするに及びて漸次低減し行くに到らん是れ即ち軈て來るべき衰亡の徵證にして同時に終末の初幕なり人類は女子が出產を悅ばざるに及び勢ひ其影を絶たざるを得ず余は或る未來に於て地球の表面より人類の絶無となるを決して有り得可らざることとは思はず兒孫の繁殖止むと云ふ事の必然の結果なれば也一例を擧んにポリネシア島の一群島に於て所謂文明の勢力其地を侵すまでは人口の繁殖盛んなりしも既にして其人種が自然に滅亡し行くと云ふ傾向次第に顯著となり爾來女子の出產するを全然皆無に歸し如何に之を防がんとするも到底人力を以ては企て及はず勢ひ滔々として盡きざらんとす」云々同博士は更にフ氏に對し英佛米各强國に於ける出產率の低減すべきことを語り同時に獨逸も亦國運の隆昌或る程度に達するに及びて前記諸國と同一の運命に陷るべく斯の如き人口自滅の傾向は即ち最も恐るべき人類衰亡の兆なりとなせり

●滿洲大豆と旅順港

旅順の開港は滿洲大豆の歐洲輸出に至大の關係あり元來滿洲貨物の排出口としては大連、營口、安東縣の三港を數ふべきも大連を除くの外營口の冬期中結氷と安東縣の鐵道乃至設備の不完全は冬季中の大豆輸出に何等の用を爲さず從つて其輸出期に入ては大連のみに輻湊し來る事なるが同港とても未だ自働捲上器の設備すら之なき事とて其全力を盡くすも一日僅に數千噸の船積を爲し得るに過ぎず且つ大豆の輸出に全力を盡くすの結果は他の諸貨物輸出に澁滯を來して埠頭徒らに大豆の山積を見るのみならず他貨物また倉庫に充滿しつゝ澁滯は彌が上にも澁滯す而して這は毎年一月より三月に亘る大連埠頭の狀況なるも左ればと云ひて同港の施設少くとも自働捲上器の設備丈けにても容易の事にあらず此の時に當つて旅順港の開放は何よりも第一に滿洲大豆の排出に於て非常なる便利を與ふる事となりしなり之れに就き滿鐵久保氏の談によれば縱しや大豆の輸出は旅順港に操らずとも右輻湊期中に於ける他の諸貨物就中石炭の如きものを同港に運送すれば大連は專ら大豆のみの輸出に從事し得るべく斯くて昨年の如く歐洲に三十三萬噸内地に七萬五千噸合計四十万噸の輸出ありとも大連現在の設備に於て優に之れに應じ得るに至るべし兎に角今回の旅順開放は滿洲大豆延ては其の輸出期中に於ける諸貨物の輸出に至大の便利を生じたるなり云々

廢艦の處分問題

海軍擴張の斷行に伴ひ更に近く我海軍に起るべきは廢艦の處分問題なり元來廢艦の除列編入は艦種によりて相違あるを以て戰艦と海防艦とは同樣の處分をなし難きは勿論なるも現に帝國軍艦（驅逐艦水雷艇を除く）にして二十年以上の艦齡即ち千八百九十年以前進水に係るもの十四隻約五萬噸に達し是等は平時にれいてすら既に重要任務に服し難く警備艦、測量艦等によりて僅かにその命脈を保ちつゝあるに過ぎず早晩艦籍を削除さるべきものなるが除籍後の處分に關しては歐米海軍國當路の共に苦心する處なるも英國は從來アドミラル、フイツシャー大將が（一）外國に轉賣すべからず（二）英本國領土内にて解體することの二條件を附して一般商人の手に競賣するの處分案を斷行せる以來列國は殆んど大部分その策を執ることゝなり帝國海軍にても既に一部分この策を實行し居れるが而も前記の如き條件は附せられたることなく凋落後の處分は全部權利者の任意に委したりこの點は頗る寬大なるが今日漸次内地製艦の進歩に伴はれ帝國海軍も亦英國同樣の條件を附するの必要を感ずるに至るべしこの點に關しても考慮を費されつゝありといふ

●仁川築港方針決定

仁川の築港問題は稍や行惱みの觀ありしと雖も岩崎民長及び加來前商業會議所會頭が屢東上したる序を以て要路者を訪問の上種々運動する處あり旁々或る確なる筋より傳聞する處に依れば之れが築港設計案は既に度支部の手にて調製濟に屬し京元鐵道布設起工と相前後して着手するの大體方針に決定し居れる由

文苑

▲春畝公詩存拔翠

嚴島　二十七年

嚴島風雲幾變遷。天妃祠畔浪摩天。
長留討賊英雄迹。豈啻佳稱千古傳。

講談　大岡政談　越後傳吉

旭堂南陵講

第十七回

さて傳吉がツー〳〵二階へ廻るやうになると、朝の中に花魁の部屋々々の行燈なら行燈をスッカリ集めて來まして其の行燈掃除をいたし、夜分になると油をチャンと注で廻る、ドン〳〵火を入れて火鉢なら火鉢、花魁の部屋に何十といひたいが、何百とある火鉢へ悉く火を入れて廻る、焚く炭だつて仰山なこと、それを一切傳吉が身に引受けてやる、れ客樣がれ在でになるところでも或場合には油を差しに行かんならぬ、どうせ吉原へ來る人間は金を使ひに來て居る人だ、吝なことはしません、見りや御饅頭をくれる、今までならば火鉢の中に殘つてある炭油皿に殘つてある油なんぞは皆桶へボーンと開けてしまつてこれを買ひに來る奴に賣り、その錢は已れのものにして居たが、傳吉の方はさうでない、下皿に溜つた油なぞは濟潔に漉してしまひ一滴の油でも粗相がないやうにキチンと使ふ、これは三浦屋さんへ對してするのだと思つてする、炭でもうの通り灰に塗れた炭なんぞは皆ポン〳〵棄てしまふやうなことはしません、キチンと小炭に至るまで拾ひ上げましてこいつを焚くやうにする、灰は傳吉の買ひになります、うの灰とても生灰は生灰、又安い灰は安い灰で別て置いてチャン〳〵とする、一ヶ月傳吉がこの役をして安兵衛さんが計算をした時に驚いた、これまで使つて居りましたのと傳吉が當月やつてくれた油炭の入用が半額で上つてしまつた、安兵衛さん算盤玉彈いて「アッ、ならいもんぢや」と旦那にこの話しをすると旦那が「アゝさうちやらう私はさういふところへ確かに眼を注けて置いたんぢや」傳吉この役を彼是一年ばかりして居るうちに三浦屋さんの家へ小さいやうだが積り積つて大變な金を殘さして居る、傳吉が貰つたれ錢や灰を賣つた錢は取らぬといふても、番頭が預かつて居るから傳吉の貯蓄はドン〳〵出來て來る、怠らず行けば千里の道も倒牛の歩行の假令遲くともとは旨く昧だもので何でも人間は怠らず撓まず屈せず耐忍といふ二字を守つて進んで行つたら金が貯るに違ひません傳吉のはその主義ですが、併し吝嗇といふのではない、眞個の節儉はすべからず節儉は努むべし、なか〳〵給金と兩方で貯蓄は大きなもの何日までもこれをさして置けません、内密吩咐けて中郎といふことにした中郎といへば大名方の方でいふと家老の次です女郎屋でも番頭の次は中郎、大仰なやうですが、武士の中老は中といふ字を書いて老いたるの老を書く、女郎屋さんだけで違ひます中と書いて野郎の郎の字を書く、中野郎です、遊女が道中をいたします、何故吉原で歩くのを道中かといふと、江戸町から京町の間をば花魁が練つて歩く、外八文字を踏んで行くからこれを道中と唱へる詰り江戸と京といふ間をば外八文字を踏んで行く時に、花魁の後ろから傘を差し掛けて居ります野郎が繪によう書いてある、彼れが中郎の役、また仲の町の花魁と來ると大層な見識を持つたもの、俗に傾城と稱へます、傾城の涙で倉の屋根が漏り、文字の通り傾城とは城を傾むけるこの女一人で城を傾むける辻君は障屋ぐらゐは傾むけられる我々共も時々羽織ぐらゐは傾むけられます、傳吉が斯うやつて中郎になると二階を廻るやうになる、日々遊びに來る遊客の樣子を見ると、傳吉のやうに眞正目な男が見て居られないから「アゝあんな事をして居て今に彼の人は身の始末が着かぬやうになるわい、あんなに遊び續けて居ては今に彼の人の身の修まりが何うなるぢやらうといふやうなことのみ案じる吉原で働いて居りまする廓の男なぞはなか〳〵そんなことを考へるものおやアございません一文でも餘計使はして懐中の金をはたかさうといふ方針を取るのです。



東京電報

▲聖上陛下行幸

天皇陛下には本日前田侯爵邸に成らせられ古代の寶物能樂等を御覽あり侯爵及同夫人に天杯を賜ひ午後六時還御あらせられたり(八日)

▲皇后陛下行啓

皇后陛下には東宮妃殿下と共に本日葉山御用邸へ成らせられたり(同上)

▲南海鐵道社債

浪花及三十四銀行は南海鐵道社債二百万圓を一手にて引受くべく己に假契約の交換濟みたれば主務省の認可を受け八月一日發行すべし(同上)

▲南極探險會長

去る五日錦輝館にて盛大なる發會式を擧行せる南極探險隊會にては會長に大隈伯副會長に澁澤男を推薦したり

▲米國と探險隊

米國にては我が南極探險隊に多大の注意を拂ひ各新聞は探險隊の寫眞を求め來れり(同上)

▲商務官制發布

勅令第三百五號を以て發布されたる商務官官制全文左の如し(八日)

第一條 貿易上海外樞要の地に商務官を置く事、商務官は外務大臣の指揮監督を受け海外貿易調査に關する事務を司る

第二條 商務官の定員を四名とす

第三條 外交官及領事館官制第十條の規定は商務官に之れを準用す待命商務官は一名とし前條の定員外とす

第四條 當分の內俸給豫算定額內に於て勅任又は奏任の待遇を受くる商務官を置く事を得、前項の商務官は外務大臣の奏請により內閣に於て之れを命ず、附則本令は公布の日より之れを施行す

▲日露協約發表

日露協約は昨日樞密院會議に於て可決せられたるが十三日發表の筈(同上)

▲前田侯の寄附

前田侯爵は本日 陛下御臨行幸の紀念として帝國大學へ國史研究講座新設基金として二萬圓を本郷區內八小學校へ文庫設立費として金三百圓宛寄附せらる(八日)

▲有吉長官退院

千葉に於て療養中なる新任有吉總務長官は其後の經過良好にして十一日退院直に出發赴任する由(同上)

北京電報

▲淸國海軍復興

淸國海軍の復興は着々其の步を進め既に象山港を一軍港となす事に決定し之れが築港計畫は頗る大規模のものなり

伯林電報

▲墺獨外相會見

墺國外相エーレンタール男は獨逸新外相とマリエンバットに於て會見す(八日)

▲獨逸と淸海軍

今般淸國海軍貝勒殿下一行の獨逸に於て頗る鄭重なる歡迎を受けたる厚意上淸國は海軍復興に關し材料技師の如きも獨逸に仰がんとする傾向あり(同上)

倫敦電報

▲軍艦生駒消息

軍艦生駒は五日午後カナワー群島マルラス出發十二日英國に到着すべし

憲兵隊長の着京

駐韓憲兵を滿載せる御用船吉林丸は七日釜山港に到着し憲兵隊長(即ち警務部長)以下將校下士は八日午前八時四十五分南大門驛着入京せり明石憲兵司令官は將校一同に對し訓示の上不日夫れ〳〵赴任せしむべしと今着京の重なる將校の氏名を司令部の承認を得て左に記載す

光州憲兵隊長	少佐	笠貞治郎
春川同		寺平宮吉
淸州同		櫻井茂三郎
公州同		服部米次郎
開城憲兵分隊長	大尉	井上元成
海州同	中尉	宮川宇三郎
載寧同		太田藤太郎
遂安同		橫田秀麿
新幕同	大尉	細井愛親
安州同	中尉	土屋菊太郎
寧邊同		川島友市
長林里同		古谷堅城
厚昌同		末村乙男
熙川同		奧村惠
高原同	大尉	須田愿一
甲山同	中尉	松林宇吉
春川同		川原訓悟
金化同		宮本資祥
旌善同		田村平二郎
晉州同		池田三吉
榮山浦同	大尉	松原仲太
司令部附	中尉	三浦兼一
同	同	三浦快哉
同	同	高田稔
同	同	脇野義雄

道路開鑿と金融

統監政治開始以來最も顯著なる事蹟として推賞するに足る可きものは道路の新開又は改修にして之を十數年前の韓內地に顧みる時は殆んど隔世の感なきを得ざるが就中其最も發達せる地方は慶尙及全羅南北道なりとす而して道路の改修及新開は人文啓發上多大の好影響を及ぼし從來度し難かりし頑民も自ら統一感化せられて文明の治を慣み野に怨嗟の聲を聽かず隨て又產業の發達殊に著しきを呈せるが今其影響中格別の好現象と認むべきものは金融の緩和なるが如し現に數里を隔つるも相互間の金融圓滑を缺き爲めに其利率の如き甲乙非常の懸隔を有し商業取引上其不便言ふべからざりしは何人も實驗せる處なり然るに道路の開鑿と共に直に堤防の決する如く有無相通じ既に南韓各地の如き津々浦々に到まで中心都會の金利に均一せられつゝあるは道路行政進捗の餘慶也と南韓歸來の某氏は語り

●國分檢事總長招宴

國分高等法院檢事總長世古京城控訴院檢事長中川京城地方裁判所檢事正は明村所長山形藥師川兩憲兵中佐其他約三十餘名を招き麗道莎懇親の宴を催す

社會小言

▲寺內統監が統韓政治の項目中に韓民の宗敎的信仰を奬勵するの一項を加へたりと傳へらるゝは眞か。

▲若し果して眞ならんか、余輩は寺內子の爲政家としての心掛けに多々尊敬すべき分子を包有するを壓せんと欲す。

▲故伊藤公は善人なりき、而かも公は無宗敎を當然とせし程宗敎に淡泊なる人なりき、曾禰子は善惡何れにも屬せざる人なりき、而り直截に云へば善の善たるを解せざるに非ざるも外面偽惡を以て誇りとする程に埒外の人なりき。

▲故伊藤公は自身宗敎を信ぜざりしも宗敎家を尊敬するの念はありき、殊に在韓外人耶蘇宣敎師に對しては其彼等が韓人間に勢力を有する所以と其彼等が外人たるの故とを以て彼等を好遇するを忘れざりき。

▲曾禰子は伊藤公の如くならず、宗敎を信ぜざると同時に宗敎家に對するの尊敬心をも有せざりき、故に其の統監在任中は故意にはあらざるべきも耶蘇宣敎師とは大に遠ざかり從つて彼等が或者より迫害せらるゝとも常に知らざる眞似して看過して憚からざりき。

▲伊藤公の伊藤式過ぎ、曾禰子の曾禰式過ぎ、今は寺內子の寺內式對宣敎師策を見んとす、寺內子は謹嚴方正の人也、故に宗敎を解するには最も適當の人なり、此人にして韓民信仰の奬勵を試み同時に對宣敎師の途を講せんとす、徒爾に終ざる可を信ず

▲併し宗敎はイツの時代に於ても宗敎なり、信仰はイツの時代に於ても信仰なり、古來政治家にして手を宗敎信仰問題に觸れて燒傷を被むらざるものはあらず、信長而り、ビスマーク爾り。

▲宗敎的信仰や局外者にして解するは極めて困難なり、寺內子にして韓民の信仰を奬勵せんと欲せば先以て自家が宗敎信仰の人となるを要す、而らずんば折角の苦心も總は水泡に歸せんのみか。

九日(土曜日)午後正六時半より花月樓に榊原前憲兵隊長松井前警務局長若林前警視總監並に今回休職となりたる桐原上村兩警視の送別を兼ね明石警務總監部長倉富司法部長官渡邊城南院長中

●仁川沖附近の濃霧

七日より八日に涉りて仁川近海に於ける濃霧は近來稀有にして咫尺を辨せざるの有樣なりしかは一昨日午前一時入港の豫定なりし群山丸は昨八日午前十一時に至るも入港せず尙ほ當日午後四時出帆したる鐵嶺丸、香推の二隻は共に八尾島附近に假泊して荐りに汽笛を鳴す等航海上の危險云ん方なかりし

●警察關聯事務研究

警察事務の引繼は既に之を完了せる由なるも各種行政中には警察と最も密接に關聯せる事項多く一例を擧ぐれば彼の衛生の如き警察を離れて何等行政機能を完ふする能はざるものあり其他地方行政中にも此種のもの尠からざる爲め內部は總監部との關係及將來管掌すべき程度に就き研究中なり

●麻浦船橋一部流失

麻浦船橋は去る三日英國人所有石油發動船一隻並に韓人長廣船二隻激衝の結果損所を生じ一部流下し且つ目下尙は增水の見込に付橋体一時撤去渡船を以て代用し減水を待つて更らに架設すべき旨龍山上田充より其筋に屆出でたり

●新韓民報發賣禁止

米國に於て發行する新韓民報六月六日發行第一八八號は治安妨害と認められ其の發賣頒布を禁止せらる

●練習艦千歲の來航

機關候補生六十六名を搭乘せる練習艦千歲は十二日旅順より仁川に入港の筈

●東洋日報紙の解停

治安妨害のため發行停止を命ぜられたる東洋日報は八日解停せられたり

●新編唱歌の配布 從來韓國の各學校に用ひつゝありし唱歌は不良のもの尠からざりしが學部に於ては今回適當なる唱歌を編成し既にその第一輯を出版して設立を認可せられたる各私立學校へ觀察道を經て配布したりと云ふ

●衛生講話會延期 仁川醫會の主催に係る衛生講話會は八日仁川歌舞伎座に於て開催せらるゝ筈なりしが準備整はざる爲め來る十六日に延期せりと

●湯淺秀富氏寓居 元慶尙南道警察部長湯淺秀富氏は七日仁川に移住せり

●大岡力氏の東上 京城日報社長大岡力氏は一兩日中當地出發東上すべし

韓國繭の處置方

(農務當局者の談)

蠶絲業の發達上蠶の種類を改良すべきことは最も急務にして之が改良の端緒を開かれたるは日尙ほ淺し然れども改良種は其成繭著しく優良にして在來種繭一升の價は十錢內外を普通とするも日本種繭一升は普通三十錢內外にして約三倍の高價を稱へ且つ收繭量多きが故に一般韓人も一度之を飼育せば其營泥の差あるを覺り再び在來種を顧みる者なき狀にして昨年度の改良種繭生產高は約一千石の推定なりしも本年は少くも之が三倍即ち三千石(價格約九萬圓)の生產を見るべく當國繭總產額の一割方は改良せられたるならん故に今後當局の奬勵と共に繭業改良普及の勢は漸次增大し意外に長足の進步を爲すべくして在來種の跡を絕つ又遠きにあらざるべし元來養蠶は僅々三四十日の短時日にて蠶種原紙一枚を飼育し普通三四十圓の收入を得らるべき簡實の事業にして桑園の手入れを除く外婦女老幼の手を以て足るものなれば農家に取りては最も都合よき有利の業といはざるべからず殊に當國は風土の好適地に其比稀なるに加ふるに土地勞銀の低廉を以てす故に韓人の事業としては勿論又日本の移住農業者としても確に引合ふべき有望の事業なり

尙は蠶業の發達と共に將來繭の處理を如何にすべきやは最も注意を要することにして往々繭のまゝ之を輸出するよりも製絲して生絲となし輸出するの有利なる如く考ふるものあるも之は大なる誤解にして輸出生絲は相當の技術を以て品質一定せるものを多量に製出し得るにあらざれば良好の成績を擧ぐる能はざるは勿論にして當國の現狀は此點に於て困難を感ずること少しとせず加之日本に生絲を輸出せんには當國の輸出稅從價百分の五及日本現行輸入稅百斤に付百六十四圓を要す又本年四月十四日法律第五十四號を以て公布せられたる日本の改正關稅定率法(施行期日未定)に依るときは位價三割の輸入稅を課せらるゝ今試に生絲の輸出入稅額を計算せんに生絲百斤の價を八百圓と假定せば即ち韓國の輸出稅四十圓と日本に於ける輸入稅現行稅率にて百六十四圓合計二百四圓にして又改正稅率施行の曉には日本の輸入稅二百四十圓と之に當國輸出稅四十圓合計二百八十圓の輸出入稅を徵せらるゝ割合なるを以て到底引合はざるは論を要せず去ればとて目下の狀況にては歐米に之を直輸出すること出來難きが故に韓內地に於て消費用として製絲するものは兎も角普通一般の成繭は當分之れを繭のまゝ日本に輸出するを最も得策とす何となれば繭を日本に輸出するには當國の輸出稅眞價百分の五を要するのみにして日本への輸入は免稅なり而して日本に於ける製絲家は現に國內に於ても能く數十里より二百里三百里の遠隔地に出でゝ繭の購買に奔走しつゝあるの狀況なれば當國產繭の增加するに從ひ必ずや日本より製絲家の韓國の繭購買に渡來するあり去れば將來日本と韓國の繭の相場も稍午たるに至るべし否現に其傾向は殆ど其差を見ざるに至るべく繭の眞價は益々發揮せらるゝに至るべければなり蠶業に從事するもの能く之等經濟上に注意を拂ひ莎輕卒の所爲ある可ず

第一銀行支店成績

支店資本金百五十萬圓
京城支店支配人 竹山純平
同 副支配人 河野正次郎

第一銀行京城支店の本年上半期に於ける純益金は七万六千圓である、同行は前期の終に近く韓銀に引繼いたのである、隨て此の期との比較は出來ぬ、前年の下半期には實に三十万の純益を收め得たのだと、竹山支配人聊か物足らぬ氣である、預金は三百五十万圓、此の內三百萬圓は六分で預つて同じ利息で韓政府に貸附けてあるから之れは手數損で、殘りの五十萬圓が少々の手助をして資本金の百五十万が產むだ七萬六千圓は決して惡るい成績とは云へぬ、預金日步は何れも同じ當座八厘、特別當座一錢、定期一箇年五分五厘、六箇月五分である。

韓一銀行と貯蓄

一般韓人に貯蓄の念の薄きは事實なるも同時に貯蓄機關の不備も彼等をして貯蓄を實行するに困難を感ぜしむる次第なるが此困難を看取したる當地韓一銀行は先頃より十錢以上の小口貯蓄預金を預ることゝせるを以て貯蓄に心掛ある韓人は大に便利を受つゝありと云ふ

●合併後の民團議員

合併後の京城民團議員は三十三人(京城定員二十八人內古城民長奉職菊池辭職龍山十六人內一缺員)にして來るべき改選期(十月八日)迄は現在の儘据置く右選擧と共に議員の定員を三十人と變更し且つ今日迄は二分の一選擧制(例之は一選擧人にて定員二十八人の內十人選擧なりしを三分之一選擧制(即ち定員三十人に對し十分選擧に改正さるべく內定せる由なり而して右選擧人名簿は選擧期日前五十日の現在により調製するものなれは本年八月十八日に於て年額五圓以上且つ一箇年以上繼續納稅の義務を負ふ者即ち昨年八月十九日前より年額五圓以上の納稅を爲したるものは名簿に登錄さるべき權利を有するものたり因に既に怠納處分を受けたる者は右權利の消滅せるは勿論なるも納稅の義務を負ふ者と規定しあるより強ち完納したる者にも限らざる由なれば此際滯納者は速に納付して權利の保留に勉められたきものなりと

●全南の農事講習會

全羅南道にては今春農事講習會を組織し潭陽、長興、順天、南平、務安、羅州、求禮、光州の九箇所に之を設置せるが農事改良の機運勃興せる同地方民は孰れも此擧を贊し新知識を得て一般俗流の先覺者たらんと庶幾し入會を希望するもの續々頻來し定員に對し倍以上の申込者あるの盛況を呈せり而して嚴重なる內規を設けて授業を督勵せるに成績頗る佳良にして此頃修業者六百三十二名に對し講習修得證授與式を擧行せりと尙は講習生の年齡は廿五年乃至五十年にして相當の篤農家也

●釜山福岡間の貿易

其筋の調査に係る釜山福岡間に於ける昨年度の貿易額は輸出八萬七千百七十八圓輸入四万九千六百五十六圓なりと

●澤田地方局長歸京

七日岡前內部次官を見送りて釜山に赴ける澤田地方局長は八日朝歸京せり

●明石松井兩氏訪問

明石憲兵司令官並に松井前警務局長は八日正午山縣副統監を統監府に訪問す

公人私人

▲鈴木萬次郎(愛國生命保險會社長)同氏は去る七日釜山へ向け出發
▲安武千代吉(辯護士) 同上
▲深川傳次郎(新義州副理事官) 七日新義州へ出發
▲中田福太郎(大邱林業事務所長) 七日大邱へ向け出發
▲有山寅槌(下關市會議員)七日釜山へ
▲南部重造(安東新報記者) 七日安東縣より入京九州旅館へ

●北韓方面最近狀況

本年に入りてより咸北淸津港經由北咸地方に流入する本邦人頓に增加し去四五月中の盛期にありては多き時は一船に四百乃至六百人の多數に迄上りし事あり普通八十乃至百人を常とせるが內四割は會寧淸津羅南等を中心として其周圍に停住す寄航船は日本郵船大阪商船を初め他個八所屬を合せ一箇月約二十五回以上に上れるが釜山迄航程は約五日を要す魚族は極て饒多にして實に無限の富限なり其主なる物は鰮、鰊、鰤、鮭、明太魚等を初め鰊、鯖、鱈他幾多の種族に富めるも邦人の經營は未だ頗る幼稚にして規模亦た狹小見るに足らず要するに是販路の未開に因るなり就ては同地方有志は大に是を慨とし目下冷凍輸出設備に就き企畫中なれば遠からずして同沿海の漁業は著しく發展すべし他陸產物としては無數の礦脈は所在に夥多し併し時代の稚き故經營數は極て寡少なれども出願中の者は驚くべき多數に上れり就中大利源と稱すべきは吉林及東間島の巨額なる大豆なり統計上未だ正確なる數は得難きも無慮四五百萬石を降らず其半數は營口若しくは大連を通じ歐大陸に輸送さるゝも其殘分は琿春に集中しポジエット灣を經て浦鹽に出で是より直接西歐若しくは[illegible]に輸出す併し其徑路極て迂遠にして且運輸機關の幼稚なる此間輸送上幾多の冗費を要せり此に於てか淸津を基點として間島に通ずる鐵道の開通は今や上下を通せる問題となれり其他東洋第一の鎭海建築たる約七百萬圓の工費を有する羅南兵營を初め同百萬圓の會寧兵營も今年二箇年を以て全く竣工を告げんとする今日に於て國防並利源開拓上同間の鐵道の開通は切要中の切なるものなりと

▲京城手形交換高▼

七月	金高	枚數
八日	七、三八二、五〇四	二九七

▲治外法權▼

故伊藤公の銅像を大磯へ建てる計畫があるソウだ、當地南大門へ建設の計畫も遠からず發表さるゝソウだ、偉人を傳ふるに銅像のみでは足らぬ、併し銅像建設も有効方法の一ツだ▲副統監山縣は日々統監府へ出勤するソウだが、ソウなくてはならぬ、邸にばかり引籠んで居ると運動不足の爲に胃が惡るくなる邸宅政治をやることになる、兎角無性は碌な事は生まぬ▲山縣は感心にも喜んで訪客に會ふソウだが文王を以て任ずるの士はソウあるべき筈だ、トコロで記者の希望は彼が何人に會ふにも其場所を役所の應接間と限ることだ、從來京城には官邸へ出入してソウして其邸の主人を下らぬ事に利用せんと企つる輩が輝山居る、山縣たる者如才はあるまいが此邊の事情を承知して置くがよからう▲京龍民團が合併したのは統韓政治上の大事件ヂャないが、半島首府の膨脹史上僅かに特書すべき大事件だ、此大事件紀念の爲と、ソウして京龍民團親和の爲とに何かの方法を講ずるのは此際必要な事だ▲今度贈諡された故金玉均が往年小笠原父島に漂泊して居つたことがあつた、記者も其頃同島に在つて小僧ではあつたが玉均と不絕往來をして居つた、忘れもせぬ明治十九年の天長節だ、父嶋大村と云ふ處に素人芝居があつた玉均と記者とが打連れて見物に出掛けた▲芝居の外題は戀飛脚大和往來で、誂の通り、忠兵衛と梅川とが落人姿で來た、之を見ると玉均餘程身につまされたと見えて記者に私語して曰くアノ二人は戀の亡命者です、亡命者には私大に同情しますと即座に樂屋の男を呼附けて何事をか言付けた▲暫くするとビラが張出された、記して曰く扇浦金玉樣より金百圓、酒二樽忠兵衛と梅川へ下さる、斷つて置くが金玉均は小笠原島では金玉さんが通り名であつたのだ。

●悲慘極まる休職者

[illegible]し其部長は全部休職となり續々任地を引揚げて入京せるが元來官界に生活せる人々は平素の準備等も尠く隨つて突然不測の轉免は非常の打擊たる言ふまでもなし[illegible]の顏色を見るに孰れも悄々として見るも悲慘の色あり甚しきは十數人の家族を引率せる某氏の如きは家族丈けは仁川の空家を臨時借入れて假住居をなさしめ[illegible]あり一視同列に失職したる事なれば已むを得ざる運命なるも左りとは又悲慘なる現象なりと某氏は語れり

●小作人組合の施設

[illegible]萬餘町步に亘り從つて小作人の數も頗る多く就ては當局に於ても是が保護獎勵の法を講し先つ小作年限を一定して其業に安堵せしめ一面又た仲間小[illegible]事改良勤勉貯蓄獎勵の目的の爲め昨年十一月以來全國に亘り小作人の組合を十八箇所を選定し是に各小作組合を設けたるが尙ほ不日水原外三所にも同樣設立の準備中なりと

●天氣豫報

(自八日午後六時 至九日午後六時) 曇

八日(華氏) 最高溫度 七九、三 最低溫度 七〇、五



殺人教唆事件（二）

▽元羅南日本人會長以下

黒川初次郎が殺害せんと決意したる[illegible]次郎は昨四十九日慶興なる米田辰造[illegible]以て初次郎を殺害せんと[illegible]

米田辰造

[illegible]

兇行

[illegible]

加擔

[illegible]

初次郎

[illegible]

摑撃

[illegible]

爆發

[illegible]

物を投入

[illegible]

[illegible]廷ありたるが事終り辨論に移り七十名餘にして

深澤

[illegible]の如く準備にて重大なる證にて本件は小なる[illegible]憲兵隊警察並に豫[illegible]事實を第一審裁判は認め一部は否[illegible]に就ては其

全部

不埓なる惡鑿なり[illegible]警察署に於て非常なる[illegible]に苦し紛れに無き[illegible]稱するも豫審廷並[illegible]一部分は之を認

警官憲兵等

[illegible]なし又事實參考人に因り一件記録の如く米田辰造が否認に因り明白なりとに足らず實弟なるに對して痛快に論の認定は至當なりに對する教唆犯は事

證據薄弱

なれ

不可なり果して異殺人教唆として極定のみにて犯人にに取り一大災難なの識見を望まざる

十圓紙幣を百枚

▽[illegible]したる行李の底後一時頃犯罪捜査筑後川丸に出張し自稱東京々橋區柳ふがあり鎮南浦迄

腑茶劇「韓學生」

▽モウ目が見へぬ斷末闕

寺内統監の新任見たる日韓合邦の前提に相違なしと早くも韓國民一部の人々に疑懼の念を起さしめしが中にも豫て排日の思想を盛に吹き回し居たる京城の

劒契團

は日本に留學せる同國學生等と款を通じ何事をか成さんとする形勢あるにぞ在東京七百四十名の韓學生は遂に嚴重なる監視を付せられ動もすれば憲兵巡査の尾行を見る事さへあるに至れり其かゝはらぬか麹町中六番町の

大韓興學會

より六月下旬發行せし

報告書

は何か過激の議論を載せしと見ね忽ち發行禁止の命を受け先にも例の

安重根

を國家の

忠臣

なりと論評して不穩の文字を並べし事もあり之等の印刷物は何れも同學會の内部に獨立の印刷部を設け盛に

秘密出版

を續行し來りし事とて殊更其筋の監視嚴重になりしかば客月末徹を米國紐育にある同志の團に送り彼の地に於て畫策せしめん方策をとり一方劒契團の交渉に應じ暑中休暇によりての歸國と見せかけ

旅費節約

といふを名義に

團結歸國

の方法を取り第一回は去月廿六日第二回は同廿九日何れも廿餘名宛歸國し又

張淳翊等十八名の團體

已に成り近く發程歸國せんとする模樣なるが三回共に連絡あり更に第四第五と次ぎ〳〵に歸るは何か仔細のあるらしと常路の人が質せば未だ定まつて居ないと巧に逃げをはり或は一人密に還るものありされども馬關と門司とに於ける

監視

は更に嚴重なり國に着く時は既に内地より電報の照會ありて上陸匆々

尾行

を附せらるゝ狀態には流石の彼等も

當惑顔

にて昨日開きし評議員會にも此問題が議題となりし程なりといふされども某韓學生は記者に語つて曰く我等は徒らに

日本

の政策に

反對

する者に非ず要は在韓日本人を排斥せんと欲する李朝が三代にして亡ぶとは豫言者も之をいへり吾人は

李朝に忠

ならんと

情よりも祖先の墳墓を重んず

るの情更に切なり何たる暴慢ぞ在韓日本人は財寶を奪はんが爲に吾等の生命よりも重んずる墳墓を

發掘

し祖先の靈を辱かしむ之れ忍びがたき所なり吾人の日本人に對し慊らず思ふ所以只此一事あるのみ此衷情は何とかして發表せざる可らずて

な事を仰云つてるもありとぞ

イヤ腑茶でカッホレ

勝利拍子の足拔

▽龍山の天に一道の妖氣

仁川淺岡樓にて此俠妓ありと知られし勝利拍子は元京城井門にて千

太郎

と稱び可なり賣出したる妓なるが仁川に來てからは餘り持て囃されず

券番の席順

なら尻から來いと云ふ位なりと云ふ有樣にて兎角失意の裡に日を暮し居たるが兩三日前無斷にて家を飛出し天に翔けりしか地に潛みしか羅張り

行衛

を晦ませしに同樓に於ては血眼になりて

搜索

中なりと云ふ龍山の天に一道の妖氣立ち昇り居れり是れ只事ならずと知れ

夜はた妾晝は淫賣

▽度支部某主事が妾

御成町九十五番戸鈴木虎藏は以前口入屋を營みし者にて多少料理屋の方にも經驗あるものなるが曩きに國家料理店末岡廣吉方酌婦逃走に際し捜査上に付旅費云々の爭論を起し末岡に毆打輕傷を負せ西部署に告訴中なりしが當時の署長鈴木警視は說諭して示談せしめ後來を訓戒せられ放還せられしが鈴木は此頃ビヤホールを開業せしに同所の酌婦に雇はれたる横濱生れのゆき（二四）と云ふ者は滿洲安東縣及び龍山方面にて淫賣に從事せし莫連女なるがチョッコン溢皮の剝け居る處に度支部主事某は惚れ込み御成町鈴木宅の附近に一戸を構へ夜中妾兼妻に爲し居るが此のれゆきどん一人にては不足にて晝丈けの淫賣を爲しつゝある由なるか度支部主事某は知らずして、日の暮れるを待ちながい位に熱中し居るとかなるが然とは凄いれゆきの腕かな

●酒代に靖獻遺稿

山口縣北村山郡西鄕村字川島二百十九番地當時住所不定柴田幸（三）と云へる者は西部盤松坊鍮洞五統五戸酒幕鄭泰淳方に七日午後九時頃立ち寄り飲酒したる代金七錢と

●小作人組合の施設

[illegible]は[illegible]合せて約十[illegible]作[illegible]して其業に安堵せしめ一面又た仲間小作料の公平を圖る外農事改良勤勉貯蓄奬勵の目的の爲め昨年十一月以來全國に亘り小作人の集團所十八箇所を選定し是に各小作組合を設けたるが尚は不日水原外三所にも同樣設立の準備中なりと

[illegible]萬餘町歩に亘り從つて小作人の數も頗る多く就ては當局に於ても是が保護獎勵の法を講し先つ小作年限を一定

[illegible]川の空家を臨時借入れて假住居をなさしめ自己の所有[illegible]として用に供し居る人[illegible]の打撃たる言ふまでもなく[illegible]元[illegible]警察署長[illegible]り一瞬同列に失職したる事なれば已むを得ざる運命なりとは又悲慘なる現象なりと某氏は語れり

[illegible]は悄々として見るは十數人の家族[illegible]の家族丈けは仁

●醉狂して摸らる

齊坡通り監獄署敷地埋立工事場に七日午後三時頃日韓人の喧嘩ありたるが被害者は平壤大東門内里門洞當時同所工事人夫玄文玉（三三）加害者は山口縣久賀郡三輪村當時青葉町四契土木請負業山本軍造（三六）にして山本は被害者玄文玉を使役しつゝあるが文玉は常に酒癖ありて飲酒の都度醉狂し他人に迷惑を掛ける事屢々にして當日も酩酊して醉狂を爲し暴行を働くより山本は之を制せんとせしに反抗するより打ち摸り輕傷を負せたるより西部署に告訴し目下双方取調中

なりしも懷中無一物にて支拂ひ出來ず爲めに携帶したる靖獻遺稿外數十冊の漢書を預け他より調達し來り支拂ふに付待ち呉れと相談せしに鄭は應せず西部署に突き出したるより取調の上書籍を預り說諭速に調達す可き旨命じ放還せりと云ふか同人は多少逆上し居たるには非ざるか打見たる所無鍵酒食すべき人體の者にも無かりしと

●倭城臺日曜奏樂

京城居留民團にては毎年夏期には軍樂隊を聘して倭城臺公園に日曜奏樂を爲せしが今年も來る十日（日曜日）午後七時より倭城臺公園に於て左記四回の奏演を爲す由

▲第一部　一、大日本國歌行進（旅順紀念）二、序樂黃金の賞牌　三、印度ヂルヒの戰爭（意想行進）四、舞曲世界一週

▲第二部　五、歌劇クラリチット獨奏（詠嘆時）六、同林中の樵夫　七、行進曲ヲシントンの郵報　八、君が代

●韓人の詐欺賭博

中部松峴十七統一戸朴時運（三）は七日午後五時北部管内義州街路に於て數名の者と共に通行人を誘ひ詐欺賭博を爲し居る處を北部署刑事取押へ花札三枚賭金五十錢を押收し本署に引致目下取調中なりと因に犯人は日本語をも解し高襟的人物なれば日本人と共謀にはあらずやと

●ポケット日韓會話

今回當地日韓書房より新刊發賣せるポケット日韓會話は体裁製本共頗る美本携帶に便ならしめん爲め袖珍ハイカラ本とせり。城南同志會にて編纂せしもの學務局長尹致晔及東京外國語學校柳必根の二氏が校閲せしもの故從來の日韓會話書と違ひ正確なる事を保證す（定價金六十錢郵稅六錢）

目と耳

●南山本願寺土曜會　今九日は土曜日に付例の通り午後八時半より有說教

▲壽座　九日の代り番組は左の如し

道かん（金平）ゆび寫繪獅子の曲（金遊齋）常盤津並に浮世ぶし（小つま）音曲ばなし（市馬）壽限無（金勝）音曲手たどり（金登喜）明からす（花圓遊）曲藝いろ〳〵（龜治郎）尺八曲雅曲種々（花堂）御鉢（金馬）大切新作喜劇京城日報所載韓人喰逃

如雲一座を聽く

▲浪花館　例の如く前晩の顏觸れにて

▲歌舞伎座　九日夜に於ける如雲の語り物は「義士傳中横川勘平」二席

▲歌舞伎座開演中の浪花節の全盛期は既に過ぎたかも知れぬ、義士銘々傳も最早カビが生へたかも知れぬ、併し天下一の美音家桃中軒雲右衛門は一種の聲樂家として今も尚ほ至る處で歡迎されて居る、此の雲右衛門の聲調を其儘蓄音機的に寫したのが如雲である、如雲の命名も此邊から出たのであらふ、彼れや漸く十六歳の少年であるが實に斯界の天才である、記者の聽いた中で最も氣に入つたのは赤垣源藏であるが、此の赤垣は何んで聽いても面白いが雲右衛門は最もこれを得意として居る、如雲も又其通りで「時は元祿十五年極月中の四日、巴マン字と降る雪に赤合羽に竹の皮の笠、踏みし足駄の二の字さへ亂れ勝なる千鳥足」と讀み出す處態度から節廻し迄雲ソックリで思はず拍手を禁じ得かなつた、それに彼れの讀み口は秩序整然として更に横道に入らずアッサリとした處が嬉しい、只慾を言へば表情の乏しい點であるがこれは小供だから是非も無い事であらふ、其他九州男、清𣏒皆相當の技倆を有し傾聽に價するが中にも雲若とて當年十二歳の小僧だが實に甘いものだ、聲もよし愛嬌もあり、それで節廻しは奈良丸ソックリで此見の一句一節は常に喝采を以て迎へられる、只讀み物が佐倉義民傳の一本通しだから仕方がないが若しアレで如雲の如く義士傳の替りものでも出來たら確かに一本で立つ事が出來る或は如雲以上に成功するかも知れぬ、要するに今回の一座は何れも若手揃ひで一生懸命にやる處が嬉しい（一記者）

今日の運勢

七月九日舊六月二日一白先勝乙亥定△一白　奸智妄言を受くる事あり新事旅行凶盜害畏るべし△二黑　不振の日新事見合せの事談議婚姻養子の事談凶△三碧　利益又は便宜を得る事あり婚姻事業始め開店に吉△四綠　顯名の日なり

婚姻名弘め入學門仕官就職の事吉△五黃　新事見合せの事紛爭嘲弄の恐れあり△六白　觸して盛運日なり但し事業始め開店訴訟仲裁婚談に添む△七赤　近親のため煩累あり其他大抵吉△八白　阻郭多き日新事見合せの事實買談纏り難し△九紫　不得要領に了らんとす新事見合せの事農林業には吉（本町五丁目三一館判）

●天氣豫報

（自八日午後六時　至九日午後六時）

曇

八日（華氏）　最高溫度　七九、三　最低溫度　〇七六五

廣告

●平安南道警察部長官舍其他新築工事

右七月十五日入札ニ附ス（建築所）

第廿五號　公告

當民團立各小學校日覆建設及衞生器具設備費トシテ左記ノ通寄附相成候條此段公告ス

明治四十三年七月八日　京城居留民團民長　古城管堂

記

一金五百六十六圓五十錢　總

十五圓　石塚　忍
十五圓　國分　峰
十圓　俵　松子
十圓　菊池　米千代
七圓　淺見　やゑ
七圓　中山　政
七圓　林　茂
六圓　淺野　はな
五圓　二浦　きよ
五圓　廣田　ふゆ
五圓　佐竹　成子
五圓　安住　久袈裟
五圓　佐野　春子
五圓　世古　あい
五圓　岩野　幾世
五圓　勝　玉子
五圓　石川　定
五圓　草場　琴子
五圓　秋葉　滿壽枝
五圓　伊藤　靜子
五圓　黒岩　よし
五圓　四王天　かず
五圓　山形　八重
五圓　桐原　つた
五圓　岡崎　幸子
四圓　山口　龜
三圓　鈴木　やす
三圓　小田　京子
三圓　小田倉　梅
三圓　淺田　きく
三圓　境　とめ
三圓　蓑谷　よし
三圓　四方田　けい
三圓　有賀　そで
三圓　末松　宗子
三圓　鈴木　鈴
三圓　小林　さき
三圓　中野　種子
三圓　武石　花子
三圓　川鍋　ゆき
三圓　三田　れん
三圓　小川　こと
三圓　上村　信子
三圓　小杉　みね
三圓　本田　いは
三圓　飯泉　秀子
三圓　村上　房
三圓　神田　あい
三圓　坪井　なみ子

十五圓　渡邊　高
十圓　小宮　たつ
十圓　松井　やす
十圓　中村　貞子
七圓　中村　伊勢
七圓　牧山　榮
七圓　井上　豐子
六圓　國分　八重
五圓　中山　琴子
五圓　石井　ちよ
五圓　松寺　すゑ
五圓　山邊　こと
五圓　坂出　敏
五圓　城　愛
五圓　平山　ち
五圓　三宅　いな
五圓　楠　信子
五圓　花田　かよ
五圓　横田　八重子
五圓　中村　さよ
五圓　齋藤　信子
五圓　塚本　よし
五圓　松林　むら
五圓　服部　く
五圓　古城　ろ節
四圓　和田　萬壽
三圓　田中　鼎
三圓　本多　しう
三圓　神野　淑子
三圓　塚原　つる
三圓　寺川　やす
三圓　高島　まつ
三圓　清水　花子
三圓　多田　ひで
三圓　青山　なつ
三圓　佐々木　みね
三圓　久芳　なつ
三圓　中桐　たね
三圓　新庄　銃子
三圓　原島　喜子
三圓　渡邊　しか
三圓　宗像　つた
三圓　澁谷　れぎ
三圓　限本　いち
三圓　[illegible]　つる
三圓　[illegible]　めて子

三圓　加納　きさ
三圓　津田　よしの
三圓　小寺　きん
三圓　佐々木　春尾
二圓　長尾　うたよ
二圓　吉田　いろ
二圓　武田　花枝
二圓　境　るい
二圓　吉武　波子
二圓　今村　米子
二圓　宮　いち
二圓　上田　菊子
一圓五十錢　武川　警
一圓　新貝　よし
一圓　堀内　茂吉
三十圓

三圓　青沼　よね
三圓　鈴木　しげ
三圓　寺田　清野
二圓　市岡　かね
二圓　太田　みよ
二圓　片山　登美
二圓　遠元　そを
二圓　佐治　ちか方
二圓　武藤　悦子
二圓　横山　綾好
二圓　神谷　静
二圓　秋山　きよせ
一圓　酒本　玉野
一圓　大山　りゑ
一圓　長谷部　寬